

仕事って 何だっけ



大学の経済学部を卒業して東京都の公務員になりました。就職活動で企業に面接に行ったこともありましたが、公務員試験に受かって、公務員になることにしました。大学に残って大学院においでというお誘いもあったのですが、経済的にも大学から先の経済的負担を親にかけるのはさすがに気が引けましたね。

それから、38年間すぎて、今年定年退職となりました。

公務員というと、分かったような仕事のように、なにも実体ははっきりしません。警察官とか消防士も公務員ですが、公務員とは呼びません。水道・下水道・病院・学校・保健所・ハローワーク・都税事務所など多岐にわたる仕事があります。

僕は、勤めたときに主税局採用となり、税務事務を初めて、そのほかの仕事には異動せずに終わってしまいました。建設とか道路とか公園などの仕事を希望したのですが。

地方公務員は、時間に余裕があり、休みが取りやすいと聞いていました。僕は、学生時代にザックを担いで日本各地を旅行していました。お金はないから、泊まりはユースホテルが多かったですね。お昼は、パンと牛乳。だから、いろいろなところへ行ってはいるのですが、名物料理なるものは全く口にしていないのです。その延長みたいに、旅をしたいという思いがあったため、地方公務



員は魅力的な仕事に映りました。

採用のときに、公務員の志望理由を聞かれて、「旅をするのに休みやすいから」と正直に答えて、「そういうことは口に出さないの」と笑われてしまいました。

ほとんど法人への課税関係の仕事をして定年まで来ました。自分は税のプロであるという思いを強く持つことが必要でした。税理士・公認会計士といった税のプロを相手にするため、難解な税法の条文と格闘しながら、自分なりの勉強をしてきました。

途中、上司とうまくいかない時も、部下に恵まれない時もありましたが、公務員を辞めて他の仕事と考へたことはありませんでした。この仕事に向いているというより、この仕事以外に自分に向いた新しい仕事というのが考えられなかったからです。

どうでもよい仕事というのではないと思います。自分が行わければ、他の人がその仕事を行うことになります。どんな仕事であっても、お金をもらう以上はプロですから、真摯にその仕事と向き合うことが大切だと思います。

これから、皆さんが仕事と向き合っていくときには、その仕事が自分にあっているかないかということや不満などよりも、まずはその仕事のプロをめざしてほしいと思います。そのあとで、次の段階として、自分と向き合してほしいと思います。



既存鉄筋コンクリート造校舎建築の耐震性能

清水 泰

私が東京工業大学附属科学技術高校に赴任したのは平成元年4月でした。早いもので、もう定年を少し過ぎていて、平成22年3月で全ての勤めを終了することになります。その間、高校における教育活動を行う傍ら、学校校舎建築の耐震性能に関して研究を続けて参りました。今回、教育後援会より原稿執筆依頼が参りましたので、この際、校舎建築の耐震性能に関して

現状を少し紹介してみたいと考えました。

日本の校舎建築の耐震性能は、世界的に見れば大変に高いレベルにあることは言うまでもあ

りません。震度V程度では無被害もありえます。しかしながら、日本における地震の危険性はそれを超



柱崩壊状況

えるレベルにあり、大きな地震が発生する危険性が高いとされています。2009年7月に政府の「地震調査委員会」が「全国地震動予測地図」の改定を発表しましたが、それを見ると、今後30年以内に震度VI弱以上の地震の発生確率が、改定前に比較して、全国各地で大変に上昇しています。東京に関しては、関東大震災から87年が経過した今日、何時大きな地震に襲われても不思議では無い状況にあると思われます。

校舎建築は、そこで学ぶ生徒達にとって一日の大半を過ごす学習・生活の場であります。そのため、十分な安全性が確保されなければ、学校教育の根幹に関わる問題となりかねません。しかしながら、阪神淡路大震災における校舎建築の被害状況を見ますと、倒壊20棟、大破33棟、中破40棟、小破69棟となっています。私も建築系教員や建築家集団で組織したボランティア活動に参加して、大破したA高校やB高校を詳細に調査して参りました。これらの被害状況から判断



1階の崩壊



外壁の崩壊



(A高校の被害)右側3スパンが崩壊



教室内の状況(床の落壊)

しても、既存の校舎建築は必ずしも大地震に対して安全性が確保されているとは言い難い状況です。これらの被害を受けて、現在、全国の既存校舎建築に対する耐震診断と耐震補強設計・工事が急ピッチで行われています。

我が校でも、一昨年1号館の耐震補強工事が行われ、ひとまず1号館の地震に対する安全性能は確保された様に思われます。ただし、耐震補強設計の中身を見せていただけないので何とも詳しいことは分かりませんが、補強部材の配置状況には初歩的な間違いが見られますので、耐震補強設計担当者の能力に大きな不安を感じています。また、2号館は大半の大梁に大きなせん断ひび割れを生じており、建設当初の設計時に設計者の判断ミスがあったと思われるのですが、地震時にある程度悪影響が出るのが危惧されます。



教室内の状況(上階床の落壊)



教室内の状況(上階床の落壊)

以上、校舎建築の耐震性能に関する概要を簡単に延べました。いたずらに不安をあおる気持ちはありませんが、注意するに超したことはありません。通常、日本では、建物の利用者には耐震診断結果や耐震補強設計の内容は知らされませんが、利用者の不安を解消するためにも明確な説明文を付記した情報開示が望まれます。



教室内の状況

第6回 シェフ大塚お料理教室

1月30日(土)午前中～昼に開催されたお料理教室も今年で6年目を迎え、シェフを招いて、本格フランス料理を堪能しました。何かと忙しい時期にもかかわらず、42名の方に参加していただき、和やかな雰囲気の中、楽しいイベントとなりました。



ふだんあまり使われていない家庭科室にも活気が溢れ、調理具や食器達も、久々に活躍したという感じでした。

さて今年は、「免疫力を高めるお料理」をテーマにメニューを考えていただきました。

当校も新型インフルエンザの影響で、学級閉鎖、学年閉鎖が相次ぎました。現在、厚生労働省の報告で国民の14人に1人が感染していると報告されています。重症化するケースもあり、深刻な社会問題になっています。そんな中、私たち役員の間で声があがったのが、このテーマです。私たちは点滴を除けば栄養は口からしか摂ることができません。健康でおいしい食事を作り、家族の健康を支えることが保護者の使命ではないでしょうか。

今回のメニューを紹介しましょう。

1. 地鶏のマーマレード焼と南瓜とじゃがいものガーリックバター
2. 焼き野菜とエビの和風マリネ
3. サンラートウフタン(中華スープ)
4. 苺とよもぎのわらびもち、の4種類でした。

材料、調味料とも一般家庭で揃えられるものばかりです。しかも、メインは「鳥の胸肉」主婦の財布にはやさしい食材です。この胸肉は、3日前からシェフがソースに漬け込ん

でくださっており、熟成され大変柔らかく上品な仕上がりになりました。このソースは、マーマレード、白ワイン、塩、胡椒と、いたってシンプルな材料です。しかし、味は高級レストラン。舌づつみを打ちながら、思わず「おいしくて、体に良さそう！」と声を出してしまいました。参加者の多くの方から高い評価のメニューでした。

また、下ごしらえから後片付けまで、大変スムーズに運びました。これもひとえに、参加して下さった保護者の方々のご協力のおかげと感謝しております。

来年度は、また未定ですが、引き続き開催されることを願っております。会員各位の皆様におきましても、日頃の健康管理に留意し、御家族と共に健康で楽しい食卓を囲んでください。

【参加者からの声】

- *おいしかった。
- *和やかな雰囲気良かった。
- *シェフの料理ということで心配でしたが、思いのほか簡単で良かった。
- *シェフのお話が良かった。
- *はじめに、シェフから手順の流れの説明を詳しくしてほしかった。



*ワンポイントアドバイスを各テーブルに周りながらしていただいたが、始めに全体にしていた良かった。

*食後に、シェフへの質問コーナーがほしかった。貴重なご意見ありがとうございました。皆さまの声を今後活かしていきたいと思います。

【インフルエンザ時のワンポイント：療養時の食事例】

高熱時は、食欲が落ちるものですが、エネルギー消費量は高くなるため、おかげだけでなく、できるだけ効率よくエネルギーがとれるものを献立に取り入れ、間食も加えて調整しましょう。発熱時に比較的食べやすいのは、高脂肪アイスクリーム、缶詰のくだもの、酸味の少ないフルーツジュースなどです。また、イモ類を使った料理はエネルギーが高くビタミン類もとれるので、おすすめです。(1-A 宇佐美)



■第6回 シェフ大塚お料理教室の概要

日時	2010年1月30日(土) 11:00～14:00 (受付 10:30～11:00)
会場	本校1号館3階 家庭科実習室
メニュー	免疫力を高めるお料理
講師	大塚義夫氏
持ち物	エプロン、タオル、三角巾、箸、筆記用具
参加費	500円(当日受付)

■シェフ大塚(大塚義夫)氏 プロフィール

- 1976年 第1回青年司厨士ヨーロッパ派遣員として欧州各国で修行
- 1978年 フランス プロスペール モンタニエ 受賞(優秀料理人賞)
- 1981年 レストラン東急支店料理長 就任
- 1993年 レストラン東急本店総料理長 就任
- 1997年 総料理長としてプレッセ1号店を立ち上げる



現在、高級フランス料理を日常生活の惣菜へ、3度の美味しさ＝「見た美味しさ・食べた美味しさ・感動する美味しさ」をコンセプトに、素材にこだわり安全性を追求した「食＝健康＝美味しさ」を、テーマにした商品を開発中。

「六義園庭園見学報告」

副会長 村田 幸久

第2回となりました教育後援会主催の庭園見学会は、11月14日(土)、駒込・六義園(りくぎえん)に行きました。以下の通り、その概略を報告します。

当日は秋晴れの好天で、平成天皇・皇后御在位20周年の祝賀を記念し、前日から3日間入園無料で開放され、各グループごとに専属のガイドさんの説明付きでした。

見学会は正門前に午後2時集合で、小池会長・上林副会長を始め、今田・西谷両教諭、役員さんや保護者の方々総勢40名ほどが参加。参加者多数のため2グループに分け、まず第1陣が出発しました(第2陣は約30分程遅れて出発)。本来は講師(ガイド役)という立場だった私は、専属ガイドさんにおまかせし、グループの一員として見学いたしました。

六義園は元禄8年(1695年)、5代将軍綱吉より下屋敷として与えられた駒込の地に、側用人(そばようにん)柳沢吉保自らが設計、指揮し、平坦な武蔵野の一隅に池を掘り、山を築き、7年の歳月をかけて「廻転



式築山(つきやま)泉水庭園」を造りだしたものです。この庭園の名称は、中国の古い漢詩集である「毛詩」の『詩の六義』と、紀貫之(きのつらゆき)が転用した和歌の「六体」に由来するそうです。そして、その全景は中の島を有する大泉水を樹木が取り囲み、吉保の生まれ故郷である紀州(現在の和歌山県)和歌の浦の景勝や和歌に詠まれた名勝の景観が八十八景として映し出されています。しかし、これほどの名園にも関わらず、吉保自身は完成後一度立ち寄っただけなのだそうです。

入園してすぐに内庭大門をくぐると、宣春亭(茶室)を左手に見ながら出汐の湊(でしおのみなど)に行きました。この地から池全体、さらに中の島を見渡し、右側に妹山・背山、その奥に渡月橋(とげつきょう)を眺め、左側には蓬莱島(ほうらいじま)や千鳥橋があり、対岸には吹上茶屋(ふきあげちゃや)が確認できました。下記に主だったスポットを2,3取り上げてみます。



1つ目は「ささかへの道」、「ささかに」とはクモの古い呼び名で、老が峰(おいがみね)の北側を通る池の小道がクモのように細い所から名付けられたようです。なかなか風情がありました。

次に「滝見の茶屋」。樹木の中を溪流が走り、岩の間から落ちて水しぶきをあげています。そのそばの四阿(あずまや)からは、その趣向を凝らした跡が窺えます。

3つ目は「藤代峠」。小高い山道といっても階段状の細道を登るのですが、頂上に達すると池全体や中の島が開け、ちょうど出汐の湊の反対側のスポットとなり、味わいは格別です。

遠景には上野方面の近代ビル群が立ち並び、永い歴史の中に「よくぞ今日まで存在してきたな」という一種の感動が沸き起こります。四季の花々、多種類

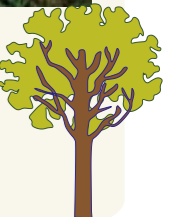


の樹木、水のせせらぎ、数々の鳥たちの鳴き声など、園内全体で自然の素晴らしさを満喫できるのです。

いずれにしましても、1時間半ほどの見学となりましたが、自然に親しみ有意義な想いの時間を過ごせたことは間違いありません。最後に参加者全員で記念写真を撮影し4時半頃に散会、多数の方々に参加していただき盛会のうちに終了しました。誠にありがとうございました。



RIKUGIEN



ホームページが新しくなりました！

【トップページ】



このホームページでは、教育後援会の成り立ち、“教育後援会だより”や後援会の特別活動、役員会日程などを掲載しています。大切な情報を掲載していますので、時々ご覧ください。
<http://tokodaihuzoku-koenkai.com>



機関紙“教育後援会だより”をpdfデータにて第1号からご覧いただけます。

弟燕バザー



高校への支援を考慮して提供して下さった品物に対して、後援会役員で品種と個数を分別して、適正価格を定めています。

平成19年度「本館2階212教室前方にスクリーン設置」、平成20年度「光学式マークシートリーダ(OMR)」でした。

ご協力いただいた皆様方に厚く御礼申し上げます。

なお、今回の売上げ金額は、87,310円でした。今年度は次年度と合わせて使います。

(記 西谷)

文化祭(弟燕祭)の2日間で、本館(1号館ロビー前)で後援会役員の役割分担に従い、完売を目標に開催しました。バザー売上金から、文具やビニール袋、休憩時の茶菓代金などを差し引いた純益(実収入)を会計役員を通じて教育後援会の口座(後援会の運営費用に充当)に入金しております。

ここ数年間の寄付としては、本校の教育補助費と合算しながら、平成18年度「4号館・体育館前に除細動機(AED)設置」、

教育後援会だより 第11号

平成22年3月11日発行

東工大附属高校教育後援会
発行人 小池 正一

印刷所 株)レンタリンク tel.045-719-7201